実践事例.02

多くの「出会い」の体験と学びの基礎を修得し自分で決める力を育てる

埼玉 国立 筑波大学附属坂戸高校

1年担任
塗田佳枝先生

1年担任
北原立朗先生

School Data

1946年創立／総合学科／生徒数486人（男子216人・女子270人）／進路状況（2012年度実績）大学55.6％・短大3.3％・専門学校29.4％・就職3.9％・その他7.8％

生き方を選択する力を体験で身につける

総合学科開設から20年。以来、先進的なキャリア教育に取り組んできた筑波大学附属坂戸高校。現在、同校のキャリア教育は、1年次の「産業社会と人間（産社）」「キャリアデザイン」、2年次の「総合的な学習の時間」、3年次の「卒業研究」といった流れで展開。その中枢を担うのが1年次の「産社」である。

「この科目によって、生徒は社会や働くことへの理解を深め、自らの適性を判断しながら、生き方を考えることになります。11年度から始まった新教育課程のキーワードは〝自分で決める、自分で学ぶ〟なのですが、産社での経験を通して、〝自分で決める力〟の素地を養ってほしいと考えています」と塗田佳枝先生。

同校の「産社」は①自己理解②職業理解③社会理解④履修計画作成をポイントに、学年団が中心となって指導計画を立てている。「今年度は、例年に比べ、体験的な内容を多く盛り込みました」と北原立朗先生。具体的には、入学式翌日からの「コミュニケーションキャンプ」でのインタビュー、菜園作りの班活動、プロジェクト学習を新たに取り入れている。「自分の生き方を自分でみつけ、選択する力は、教えられて身につくものではなく、自身の体験からでしか得られない。そこで私たちの学年団は〝出会い・出会う〟をテーマに、さまざまな人や体験、知識、場所との〝出会い〟を生徒に提供することにしました。その出会いを通して自分の生き方、哲学を育み、将来へのイメージを広げてもらい、科目選択、そして進路選択へとつなげてほしいと考えています」（北原先生）。

産社の新たな試みの中で、特にユニークなのがプロジェクト学習だ。これは「本物や実社会に触れることで、自らの世界観をさらに広げ、知的好奇心を育むきっかけとなる活動も取り入れたい」という思いでスタート。各学期1回、3日間（6コマ）を使う。概要は図1の通り。教師の力を借りず、班ごとの自主的活動となる。「1学期は地域の企業や団体を取材。聞きたい内容、アポ取り、当日の計画もすべて生徒に任せます。なかにはアポ取りの段階で10社から断られた班もありました。でも、その経験も社会を知るうえで大事なことです」と北原先生。

2学期は自己理解がテーマ。他者の人生観に触れることで、自分なりの生き方を考えさせたいと、地域の人々に人生観を尋ねる取材を実施した。「1学期とは〝出会い方〟も変えたいと思い、街で出会った人に『あなたにとって生きるとは？』と質問し、答えてもらうことにしました。翌週は多種多様な返答をもとに討議・発表し、『生きること』に各自が向き合えたようです」。3学期は他者理解として、哲学的なテーマに関する対話を行う予定だ。

こうした1、2学期の学習をベースにして、冬休みに「今後のライフプラン」を作成、発表する。「高1の終わりで、将来を考えても絶対ではない。もっと人生は複雑で変化に富んだものです。でも、少なくとも今の時点で〝こういう人間として生きたい〟と自分の目指すべき価値を見出し、考えたことを形にしておくことが、その後のキャリアを構築していく力になる。これこそが産社の役割だと考えています」（北原先生）。

なお、産社では単元ごとに必ず振り返りを行い、個人の発表やポスターセッション

図1 「産業社会と人間」プロジェクト学習

1学期	**「社会理解」地域の企業や団体を取材し、社会の中の「つながり」を知る。** ➡現場を見ることで社会や職業に対する知識を深め、視野を広げる。
2学期	**「自己理解」さまざまな人の人生観を聞き、「生きる」ことを考える。** ➡時間割決定を前に、根源的な問いに立ち向かい、自己を深く追究する。
3学期	**「他者理解」対話を通して、思考の共同作業を楽しむ。** ➡生徒自身が決めた正解のないテーマについて、自らの考えを表現し、広げ深めるとともに、他者の意見を尊重し、話し合う楽しさを知る。

コミュニケーションキャンプ最終日に行った「地元の人へのインタビュー報告会」。

取材・文／いのうえりえ

を実施している。これを繰り返すことが、否応なくライフスキルやコミュニケーションスキルの向上に役立ち、生きる力の育成につながっていく。

「総合学科の学び」をゼミスタイルで学ぶ

1年次のキャリアデザインは、11年度入学生から導入した新科目（図2）。自主的に学べる基礎力、場面に応じて行動できるソーシャルスキル、自分の生活をコントロールできる能力の習得が目標となっている。

「入学時点で、自分で考えるという本校のスタイルになじめない生徒もいます。また、3年次の卒研が、本校での学びの集大成であり、多くの取り組みがそこに向かっているのですが、卒研の段階になってもテーマ設定、情報収集やまとめ方がわからず、戸惑う生徒も少なからずいます。そこで教員の目が届きやすい少人数制で、学ぶ楽しさを実感しながら、総合学科における学びの基本スキルを獲得させるため、設置しました」と塗田先生。

産社が体験型なのに対し、キャリアデザインは調査中心。授業もHRに関係なく、教師1人が生徒12～13人を担当するというゼミスタイルにしている。

「例年は教員が講座名を設定し、ある程度内容を決めて受講者を募るのですが、今年は担当教員に得意分野をいくつか挙げてもらい、生徒に選ばせる形式にしました。生徒は気になる項目のある枠の先生の班に入ることになります」（塗田先生）。例えば、2枠の「鉄道」に興味をもった生徒は、2の班に所属する。そこでいくつかの鉄道関連の本を読んだり、必要な資料を探したりしながら、自分のテーマを深めていくことになる。進め方は各教師に一任しているが、1学期は「知る」、2学期は「考える」、3学期「発表する」といった3ステップに主眼を置くことは共通している（図3、図4）。

さらに、キャリアデザインでは生活を自分でマネジメントできる能力を身につけさせるため、市販のスケジュール帳を活用し、主体的な生活管理、学習習慣の定着を図っている。

「本校は宿題や課題が比較的多く、2年になって専門科目が始まると、レポート提出の機会も増えます。締め切りをなかなか把握できない生徒も多かったので、逆算して計画を立てる力を身につけさせるため、開始しました。スケジュール帳は1週間ごとに提出させ、各担当教員がチェックします」。塗田先生は「記録することで内省できる」ことも生徒にとって大事な作業と考える。

「こういう地道なことを、日々繰り返しているうちに、自分で何かを考え、決める力は身についていくのではないか。卒業後の人生においても好奇心を持ち続け、視野を広げて生きる人になってくれるのではないかと、期待しています」（塗田先生）

体験型「産社」と自ら学習できる力を養う新科目の相乗効果で、同校の考えるキャリアデザインを生徒たちに実現させている。

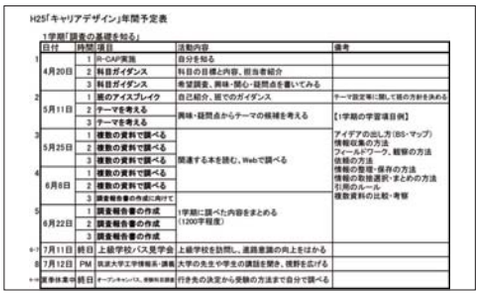
実践のヒント

ひと工夫のしかけを入れると体験もひときわ充実します

Q コミュニケーションキャンプで実施した取材活動とは？

入学式翌日から3泊4日、黒姫高原で実施している校外学習では、コミュニケーション能力や、自分で考え行動する態度を身につけさせるため、マウンテンバイクや残雪の森散策、アイスブレイクなどの活動の中にさまざまな〝しかけ〟を仕込ませています。その一つが今回の取材活動。班ごとにマウンテンバイクで野尻湖を1周するのですが、途中でタクシーの運転手さん、農家の方など地元の人誰かに突撃取材をするという課題を与えたのです。「この町のいいところはどこですか？」など質問は何でもOK。いろんな人に出会えば、自分のアンテナが広がることを実感してもらう、その第一歩になりました。（北原先生）

図2 キャリアデザイン年間予定表



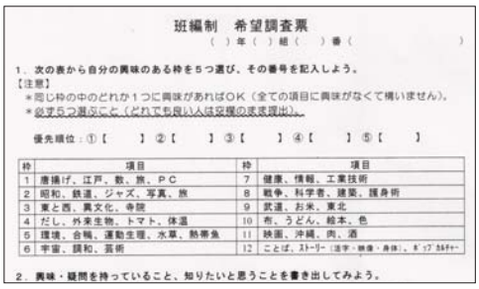
H25「キャリアデザイン」年間予定表

1学期「調査の基礎を知る」

日付		時間	項目	活動内容	備考
1	4月20日	1	ホームルーム実施	自分を知る	
		2	科目ガイダンス	科目の目標と内容、担当者紹介	
		3	科目ガイダンス	希望調査、興味・関心・疑問点を書いてみる	
2	5月11日	1	班のアイスブレイク	自己紹介、班でのガイダンス	テーマ設定等に関して班の方針を決める
		2	テーマを考える	興味・疑問点からテーマの候補を考える	【1学期の学習項目例】 アイデアの出し方（BS・マップ） 情報収集の方法 フィールドワーク、観察の方法 依頼の方法 情報の整理・保存の方法 情報の取捨選択・まとめの方法 引用のルール 複数資料の比較・考察
		3	テーマを考える		
3	5月25日	1	複数の資料で調べる	関連する本を読む、Webで調べる	
		2	複数の資料で調べる		
		3	複数の資料で調べる		
4	6月8日	1	複数の資料で調べる		
		2	複数の資料で調べる		
		3	調査報告書の作成に向けて		
5	6月22日	1	調査報告書の作成	1学期に調べた内容をまとめる（1200字程度）	
		2	調査報告書の作成		
		3	調査報告書の作成		
6+7	7月11日	終日	上級学校バス見学会	上級学校を訪問し、進路意識の向上をはかる	
8	7月12日	PM	筑波大学工学博覧会・講義	大学の先生や学生の講話を聞き、視野を広げる	
9+10	夏季休業中	終日	チーブルキャンパス、夏期補充授業	行き先の決定から受験の方法まで自分で調べる	

キャリアデザインは、3年次「卒業研究」のプレ体験。学びのスキルと、相手の話を聞く態度、依頼、発表時のマナーといったソーシャルスキルを身につけるためのもの。掲載は1学期分のみ。

図3 班編制　希望調査票　ダウンロード可



班編制　希望調査票

（　）年（　）組（　）番（　　）

1．次の表から自分の興味のある枠を5つ選び、その番号を記入しよう。

【注意】

＊同じ枠の中のどれか1つに興味があればOK（全ての項目に興味がなくて構いません）。

＊必ず5つ選ぶこと（どれでも良いんは空欄の状況提出）。

優先順位：①［　　］②［　　］③［　　］④［　　］⑤［　　］

枠	項目	枠	項目
1	唐揚げ、江戸、数、旅、ＰＣ	7	健康、情報、工業技術
2	昭和、鉄道、ジャズ、写真、旅	8	戦争、科学者、建築、護身術
3	東と西、異文化、中国	9	武道、お米、東北
4	だし、外来生物、トマト、体温	10	布、うどん、絵本、色
5	環境、台風、運動生理、水草、熱帯魚	11	映画、沖縄、肉、酒
6	宇宙、調和、芸術	12	ことば、ストーリー（活字・映像・身体）、ボランタリー

2．興味・疑問を持っていること、知りたいと思うことを書き出してみよう。

キャリアデザインはゼミスタイル。教師12名の得意分野を記したこの用紙を配り、生徒に希望を出してもらう。教師も自分の得意分野なので、いつもとは違った雰囲気で授業できることを楽しんでいる。

図4 キャリアデザインの授業の流れ

1学期	**「知る（調べる）」➡調査の基礎を知る** 自分の興味のある分野を知る。テーマを考える。複数の文献を調べる。さまざまな調査方法を知る。レポートの書き方を知る。
2学期	**「考える（整理する、まとめる）」➡レポートにまとめる・発表する** テーマを決める。調査のまとめ方、発表方法を知る。発表時のマナーを身につける。聞くだけでなく疑問・意見をもつ。
3学期	**「発表する（伝える、発信する）」「批評する（評価する）」➡他者に伝える・意見を言い合う** 2学期の内容を修正・補足し、完成させる

ダウンロード可　※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 発行メディアのご紹介 >> キャリアガイダンス（NO.49）